
間桐雁夜に憑依

田ノ上

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

間桐雁夜に憑依

【Nコード】

N9707Z

【作者名】

田ノ上

【あらすじ】

登場人物のうち、第5次聖杯戦争開始時の死者は第4次聖杯戦争終了後最長でも5年しか生きられない。マスター側で参加。という2つのコンセプトで進めます。

導入

side:???

「取引がしたい、マキリ」ゾオルケン」

「はて、耳が遠くなつたかの？ 取引がしたい、などと聞こえた気がしたのじゃが。お願いがあります、お爺様。の、間違いであろう？」

始めからこれだ。相手は500年を生きる怪虫、しかも向こうの手には桜がいる。雁夜が思いを寄せていた葵の娘が。彼女は遠坂時臣に嫁いで2人の娘をもうけた。相思相愛で幸せに暮らしているが、雁夜が葵に未練を残していることは一目瞭然だ。臍硯としてはここで互いの上下関係を明らかにした上で、思考誘導によって雁夜の怒りを時臣に向け、自分はいくまで手伝いを標榜し、高みの見物をするための土台を築きたいのだろう。

ste y/n i g h t本編では孫たちを気にかける様子もあつたが、方やマキリの血を受け継いだ末裔、方やいずれ自分が乗り移るために育てていた人形。2人を肉体的、精神的に締め付ける外道な行いも魔術師としては至極正しく、令呪を作った間桐の家は、なるほど支配に長けていることが伺える。

「こちらが提示するものはお前の新しい、若い肉体と、それを保つ現実的な手段だ」

「ほ？」

しかし取引をするためには互いが対等の立場でなければならない。興味を引くために持ち出したのは、彼が求めて止まない『不死』。

「仮に、そのようなものがあつたとしても、儂はこう言えば済む話じゃ。『こ度の聖杯戦争に勝利せよ。聖杯と引き換えに桜を渡そう。敗北すれば、桜の子、孫を育てて次回勝つまでじゃ。』とな。新しい体をくれるというならばもらってやってもよいのじゃぞ？ 優しい儂はおまえに桜の子の1人を育てさせてもよかるうて」

あつさりと言つてのける。聖杯獲得という絶対的手段があるのだから急ぐ必要はない、おまえのような若輩が何をやっても無駄だと言外に示している。その上、勝利せよとは上手い言い方だ。こちらが聖杯戦争に参加することが前提となっている。

「御三家の一角が聖杯戦争に不参加でいいのか？ もしかすると次回以降の参加枠すら失うかもしれないぞ。鶴野は既に海外、今回の聖杯戦争が終わるまでは帰ってこない。そしてお前の魂があと60年も保つかない？」

ゆえにこちらは『聖杯戦争への参戦』を2つ目の条件にする。さらに原作知識だ。臓硯は魂を虫に宿し、人間を食らうことで生きながらえてきた。しかし魂の保存は不完全で、体を乗り換えるたび劣化が進んでいる。桜と第5次聖杯戦争は、臓硯にとって最後の好機だったのだ。10年後ほどではなくとも、既に焦りだしているはず。

臓硯は渋い顔を崩さないが あれ、渋い顔をしているのか？ とにかくここは強気でいなければならぬ。

「よかるう。詳しく話してみせよ」

やがて臓硯は頷いた。

導入（後書き）

見切り発車な感じですが、よろしくお付き合いください。
次は割とすぐ上げます。

主人公？ 登場

side：雁夜

「やつほー雁夜君はじめまして！ よくぞ呼んでくれました！」

「……………は？」

喋る犬がいた。いや、一瞬わからなかったが、犬の被り物をした人間のようだ。何だこれは。

「あ、私いわゆる悪魔です。契約してくれたら魂と引き換えに君の願いを1つ叶えてあげますよ！」

悪魔、といえは人を堕落させる者たちで、一神教の敵であるが、なぜここに。いや、犬の頭と言えばエジプト神話、冥界と死者の神アヌビスの姿だったか？

そついうと肯定の返事が返ってきた。説明をまとめると、元々は人だったが今はアヌビス神に仕えていて、魂と引き換えに願いをかなえたりできる。死者を導くのが仕事だが、今は休暇をもらって遊んでいるとのこと。魂を渡すと個人の所有物扱いとなり、冥界へは行けない。契約書も見せられた。

- 1・ストウム1111111111（以下、甲）は間桐雁夜（以下、乙）の心からの願い1つを受け、これを曲解せず可能な限り叶える
- 2・乙は願いが叶った時点で甲に自身の魂を渡す
- 3・契約締結後から魂の授受まで乙は契約にまつわる記憶一切を封印される

- 4・条件2の達成前に乙が死亡した場合も契約は失効しない
- 5・願いが甲の達成不可能になった場合は契約失効となり、条件1と2が無効になる

「契約するかどうかはひとまず置いて、雁夜君の願いはなんでしょ
うか？ 桜ちゃんの救出？ 葵さんが欲しい？ 時臣が憎い？ 臓
硯を滅ぼそうか？ 聖杯戦争に勝利したい？」

「待て！ 一度に言われてもわからな「そんなはずはないよ」……」

「願いのない人なんていない。君は何がしたいのかな？ さあ、私
に何をしてほしい？」

待て、よく考える。（こいつはなぜここにいる？） 俺はさつき
まで臓硯に連れられて、地下室で桜ちゃんを見せられていた。（こ
こはどこだ？） 冷たい石の床に裸で打ち捨てられて虫に犯されてい
る桜ちゃんを見て、俺は何を思った？ 助けたいと思った、助けな
くてはならないと思った。（こいつの言っていることは本当なのか
？）だがその前に考えなかったか？ （よく考える！）

「許せない……」

「誰を、許せないんだい？」

桜ちゃんにこんなことをしている臓硯が憎い。こんなことが平然
と行われる間桐の家に桜ちゃんを養子に出した時臣が憎い。そうだ、
あいつらが憎くて仕方ない。

だがよく考える。時臣が桜ちゃんを養子に出したのはなぜだ？
間桐の家の魔術が途絶えようとしていたのは誰のせいだ？

「俺が、桜ちゃんが間桐に来る原因を作った俺が、臓硯や時臣に罪をなすりつけて正義面しようとしていた俺自身が許せない……………」

「ならば君は何を望む？ 私に何をさせたい？ 魂と引き換えにしてもいい願いは何だ？」

「俺の代わりに、俺のやりたかったことをやれ！ 桜ちゃんが幸せになれるようにしろ！」

「よかるう、その望み、確かに聴き届けた！」

side end

side:ストウム

雁夜君は熱いねー、そういえば原作でも、刻印虫の浸食を受けながらぼろぼろになった体であがき続けてたっけ。すごい執念だったよね。爺と麻婆神父のおもちやになってバッドエンドになってたけど。

ちなみに私は元転生者で、魂がエジプト神話の冥界に迷い込んだことから、黄泉行きと記憶を持つての転生との2択で転生を選んだ。今は恩返しのためにアヌビス様のところで影武者をしている。基本神に休暇はないから、役に立っているようだ。

『さて、現在地は間桐邸1階。あ後は雁夜君の体を使って、義憤に憤るふりをしつつ、ほくそ笑む爺の後について地下室から出てきたわけです。多分これから聖杯戦争に参加させるための話なんか

をして君を取り込むつもりなんじゃないかな？」

『これは、不思議な感覚だな。見えるし聞こえるのに動けない』

『さらつと無視したね。そうそう、形としては、私の操る雁夜君の体に雁夜君が憑依しているようなものかな？ 使い魔に意識を移すところな感じがするんですよ。今同期しているのは視覚、聴覚、嗅覚だけですな』

もしも雁夜君が自罰を願っていた場合、刻印虫で半身人外に 葵さんを誘拐 五感を同期させて虫に犯される葵さんの前で桜ちゃんを犯す 葵さんを犯しながら時臣登場直前に体の支配権を渡す 雁夜君死亡 雁夜君の心の声付きでビデオに撮っておいて金ピカ&麻婆神父に渡す 褒美として宝具ゲット！ てな感じだったりする。ビデオは10年後くらい後に凜や士朗の知るところとなったかもしれない。

『悪かった。それと、無理して敬語を使わなくていいぞ？』

上司のアヌビス様は不倫な近親相姦で生まれたお方だし（しかも母親がアグレッシブ……）、葵さんが欲しいって言われても協力したけど、雁夜君はそれを望んでいないみたいだね。

『じゃあ普通に。それと達成目標はこんな感じかな？』

- ・桜ちゃんを幸せにする（最終目標）
- ・臓硯に復讐
- ・時臣に復讐（殺すのはダメ）
- ・時臣のサーヴァントに勝つ（時臣に屈辱を与える）

『ああ、それでいい』

では爺からやってやるつもりじゃ！

主人公？ 登場（後書き）

地下室のくだりは臓硯との話の前に現状認識させるための幻術みたいなものだということにしてください。

臓硯のファンって少なそうだよな？

side：ストウム

悪魔を自称しているだけあって、これでも契約締結には自信があるんだよ。

相手の精神状態が悪ければ、『力があれば叶いそうなこと』をちらつかせて追い込みをかける。雁夜君にはこれを使っちゃた。重要なのは、真実しか伝えないことと、精神操作をしないこと。この条件があるせいで、相手が錯乱しているととてもやりづらい。

それを考えれば、臓硯はまだやりやすい。お互いがお互いの欲しいものを理解しているから、思わぬ条件に足元を掬われにくい。しかも魔術師である臓硯は、自分が吟味して下した判断を疑わないからね。

よってこちらは自信を持って、正直に、手札を明かせばいい。

「それではこれを読み、よければサインしてくれ」

1・間桐臓硯（旧名：マキリ・ゾルケン 以下：甲）は間桐桜（旧名：遠坂桜 以下：桜）の扱いに関して間桐雁夜（以下：乙）の指示を曲解することなく聞き入れ、遅滞なく従う。

2・乙は甲に新たな20代の若さの肉体と、容易に実行でき老化を防ぐことのできる現実的な方法を与え、甲はこれを自身の体とする。

3 ・乙は第4次聖杯戦争にマスターとして参戦する。

4 ・甲は乙が令呪とサーヴァントを得るために最大限乙に協力する。

5 ・甲乙は契約締結後、ただちに条件2を行う。

6 ・乙が間桐の当主となり、桜を次代当主とする。

7 ・契約締結後、甲乙いずれが死亡や改名をしても、この契約は有効である。

「雁夜よ、正気か？ ギアスペーパーにサインする以上、達成できねばならぬのじゃぞ？」

「至って正気だ。可能だからこそ書いたのだ」

シンプルイズベスト、もちろんギアスペーパーを使い、さらに特殊な加工を施しているし。これによってサインしたが最後、なんと偽名であっても契約成立しちゃうのだ！（憑依状態への対策）

この条件だと桜ちゃんが子供を作らない可能性もあるんだけど、むしろそこに注意を向けて気付いてほしい。血を残すことは魔術師の基本だからね、ってあれ……？

『考えたら桜ちゃんの子供の父親候補って、臓硯と鶴野とワカメと雁夜君だよね？』

『なっ！？ とうにかできないのか！』

『桜ちゃんが雁夜君に惚ればいいんじゃない？ 伯父と姪の愛なんて背德的……あれ？ 3等親って合法だっけ？』

『違法だ！ どうする？ このままじゃ……こうなったらアイツラヲ去勢シテオレモ……』

普段は落ち着いて考えられるのに、怒ると視野狭窄に陥るのは雁夜君の悪いところだよね。

契約の記憶を封印された雁夜君は、私が桜ちゃんを助ける理由は知らないけれど、義憤だと思っているらしい。私は状況次第で何人か見捨てるつもりだし、迂闊に原作知識は使えないなあ。

そうこうする間に臓硯が指摘してきたので、条件6に次の一文を書き加えた。

・桜は当主となった後、間桐の姓と魔術回路を持つ者との間に子をもつなければならない。

「ふむ。では、サインしようかの」

間桐の家で魔術回路を持っているのは3人、私が死ねば実質臓硯だけだから、臓硯が桜ちゃんを孕ませることはほぼ決定する。とはいえ子を産んでこそこの今回の養子縁組だし、それを認めない選択肢はない。桜ちゃんの子供は臓硯の自由にできる上に、私への協力はサーヴァント召喚までだから、爺の損は少ない。きっと私のことも桜ちゃんを助けることに囚われ過ぎて先のことまで気が回らなくなっていると思うのだろう。聖杯？ 雁夜君が取れるとは思っていないんじゃないかな。飯に取ったとしても、臓硯を滅ぼすより

も桜ちゃんのために使っただろうし、そうするように言いくるめられるだろうし。

昨日までの雁夜君なら、ね。

臓硯がサインした契約書に、右腕だけ支配権を渡した雁夜君が名前を書く。2つの署名が一瞬光り、契約締結がなされたことを確認する。表情は硬いまま、という演技をする。

「それじゃあ早速儀式を始めろ。蟲蔵でやる。準備している間に桜ちゃんのことを確認するから、よく聞けよ」

ふっふっふっふ、ここまで来たらあと一歩。爺もうまく騙せたことだし、マキリの怪虫が敗北するところを桜ちゃんに見せてあげよう！ おっと、もちろん雁夜君にもね。

side out

side：臓硯

雁夜に何かが憑いておるのには気づいておった。取引などと言いついた時にはどんな条件を突き付けてくるものかと思っておったが、蓋を開けてみれば拍子抜けじゃったな。若い肉体を用意するというのは簡単じゃ。乗り移るときに魂の情報を転写するために老いてしまふのを補正することが肝要。魔術を嫌って家を出た出来損ないが、どんな手札を得たのか、手並み拝見としゃれこもつかの。

「最後に確認しておくが、今の体は使えなくなる。間桐の魔術刻印は刻印虫だな？」

「うむ、その認識で良いぞ」

刻印虫1匹が魔術刻印1画に対応しておる。宿主が死ねば死体を食らって数を増やすため、死体の回収が見込めん雁夜には植えつけんつもりだがの。

「じゃあ始めるよ」

そう言うなり口調と雰囲気を変えおった。同時に足元と天井に描かれた魔法陣が光を放つ。

使われている模様は神聖文字^{ヒエログリフ}、だろうか？ 魂に関する記述が散見される。

「いやー、上手くいつて良かったよ。やっぱり『肉体が魂の示す形に変わる』っていう先入観があつたせいだろうね。何度も経験してきたんだから。契約書には『20代の若さの肉体』って書いてあるだけで、五体満足とも健康な肉体とも、ましてや人間の肉体とも書かれていなかったのになー？」

「!？」

いつの間にか桜の横に移動している『何か』が、もはや別人であることを隠しもせずに言う。

まさか!？ 振り向いてそう叫びたかったのに、口から出た言葉は違うものだった。

振り返った先、右手で桜の肩を抱いたそいつは左手に支えた姿見をこちらへ向けていて、

「qwse drftgyふじこlp・@＊

！？」

どうやって発音したのか自分でもわからない。

side：end

side：雁夜

あんぐりと開いた口がふさがらなかった。

いや、体は指一本動かせないんだが、そんな気分だった。

1分ほどそのまま固まっていたが、ハッと気づいて桜ちゃんに意識を向けると、見事にポカーンとしていた。瞬きするのも忘れているらしい。きっとさっきまでの俺もあんな風だったのだろう。よくわかる　と、現実逃避していたところに声がかかる。

『やったね雁夜君！　目標1つ達成しちゃったよー！』

『　なんだあれは！？』

『美形でしょー？　臓硯の兄弟をイメージしたんだよ。爺も若いころはあんなだったんじゃないかな、すっごい意外だよね、モテたのかな？』

違う。確かに美形だが、そこじゃない。こいつのセリフから犬猫にでもするつもりかと思っていたが、だから人間だったのも意外だった。問題は目の前にいるのが、

「『女じゃないか

！？』」

全く同じタイミングで臓硯だった少女が叫んだ。

side：end

side：ストウム

「あ、若さを保つためには精液を定期的に体内に取り込むことが必要だから。それさえしてればとりあえず餓死することもないし。これまで散々やってきた行為だから簡単でしょう？ 私は手伝うつもりがないけどね」

そう言って呼び出したジャッカルの頭をなでると面白いように顔を青ざめさせた。

今の臓硯は身長160程度、ごく薄青い髪をしていて胸は割と大きめで、どことなくstay/nightの桜を思わせる。ちよつと曲つ毛つばいののがわかりやすい違いかな。実年齢？ 世の中には知らない方がいいこともあるのだよ……。

お、慌てて立ち上がるうとして転んでる。そりゃあいきなり身長が2倍になったら、うまく動けるはずもないよねえ。むしろその動きにつられて蟲が近付いている、けど、臓硯が威嚇したら離れて行

った。ひよつとしたらまだ蟲を操れるかもしれないよ？　だつたら。

「桜ちゃんを育てるために、まだ幼い桜ちゃんと、保護者である俺に危害を加えるな」

ひとまずこれでいいだろうか。臓硯も　おっと。

「その姿で臓硯つてのも似合わないから、これからは硯^{すずい}つて呼ぶことにしよう。それじゃあ、桜ちゃん、上に行つて可愛い服を着て、美味しいものを食べようか。桜ちゃんもご飯の準備を手伝つてね？」

硯の手足を鎖でつないで、更に2頭のジャッカルを呼び出す。賢いこの子たちは、きつと期待に応えてくれる筈。200年物の精神はそう簡単には壊れないだろうけど、意識がなくなったりしたら、部屋の隅で様子見している蟲たちもたかつてくるだろうし。

私は桜ちゃんを抱えて階段を上つて行つた。桜ちゃんが衰弱してるから、今夜はお粥かな？

後ろで上がったただろう硯の悲鳴は、直前に締めた扉に遮られて届かなかった。

臓硯のファンって少なそうだよね？（後書き）

やりたかったネタその1・臓硯女体化。
硯にちゃんをつけたものかどうか。
次回は説明多めな感じですかね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9707z/>

間桐雁夜に憑依

2011年12月31日23時48分発行